



1605
5
特



へ5
1605

特別
1605
巻



衣キ毛キ子シや竹田タケノの舟フネ沙サ夢ユメ夕ユフ波ナミ

月ツキ松マツ枕マクラ七ナナ句ク向ムカ山ヤマ人ヒト

花ハナ年トシ一ヒト双フタ字ジ極キョク細ホソ衣イ記キい動ウツクこ拍ハク

浦ウラ山ヤマのノ字ジまてマテ立タツ了リョウそソまマ

速ヒヤク懐クワイや神ジン祇ギ杖ウエ教キョウ意イ五ゴ常ジョウ

五イのノ中ナカとト共トモつツらラるル會カイ

三サンのノまマらラふフ拍ハク海カイ拍ハク保ホりリるル拍ハク



さてハ草一本の中しこもを三ヶ
日次よ八月をよりまゝ一冊の書
竹小葉一本ハ二句をくらふ一
日云よハをまゝの端よさそを又
霞よむらさきをの月
後前乃世ハ二のりの意れ世や
代はゆるかたて辛世名の世と

いぢちとこふむとくよ方花
梅ハ二本名ハ一本をり
とろりき鬼やとんかハ百約や
十句の中も二のりそを
秋冬よ可ぬあつりあつりき
雨ハていひさそていひらぬ
嶺や雲うらや馬上の舞坂

谷崎山乃嶽と神なり
 勢や松木も用ひて
 洞すもりもりも用ひり
 海や浦入口漆のつくとも由
 江と磯も津も神なり
 干潟より渚も河も岸もてと
 池と泉も海も神なり
 水は塩干も水も用ひて
 氷もりも用ひり
 うきもみ袋や子も水も
 海も塩も神用乃なり
 雲も霞もわらもりも草も
 花ももりも神用のなり
 釣ももりも神用のなり

三
算とわろし神用の方

軒キや床里ト門窓カと窓カれ戸カと

扉ス巻タとびり神たまり

かり宿カと垣カも隣ナと壁カまてと

壁カもあき神とくそとけ

徳ト家カや石イ石イ屋ウ用ヨの戸カすスとトりリと

すスとトりリとトりリとトりリとトりリと

父母フの力カの殺スのめメと我ワと人ニ

神カ寺ジ田デのり人ニ輪リンとトりリ

小コ宿カのりニとトりリとトりリとトりリと

いイとトりリとトりリとトりリとトりリと

波ナよヨとトりリとトりリとトりリとトりリと

のりニとトりリとトりリとトりリとトりリと

老ロふフ又マ年ネれレはハりリとトりリとトりリと

晴クニキふ園ヤミはむらじきりかゝの
吹フク風アサヒそくくくかたれらと
山乃各ナらふい又とさくさく
さびさふははのユタ海とせさるい
うウたひしきいひつりけり
草クサ枕マクらすこてハ花乃くさ枕
懐紙クワシとりて又もあるへ
ひかり福フクなるそハ枕マクら寝ネころも
むらじきりかゝもふ又とせしりこ
うウたひしきいひつりけり
いづれもむらじきりいづれ
うウたひしきいひつりけり
うウたひしきいひつりけり
うウたひしきいひつりけり
うウたひしきいひつりけり

何く花をいふまよあすすや
 花と来月と交るう山姥や
 来由とあり人傳のかり
 穢上のちとらも二のすうのれ
 梅のちのちくれる并れ梅
 鶯の袖のちまよあすすれ
 子多り遊もまよあすすま

星乃濱も秋もむれ里まよ
 秋もあすす月の家
 梅物も喜田や守田梅田と
 教も若も女もあすす
 ちまよあすす
 かのちまよあすす
 本もあすす

本此字にもしつてぬいりて
月花乃女トモ人備シもあまりくは
守セキモリ守モリ推キ更コリ草クサかり
本コ枯カラフ小コ秋アキやむ葉ハと活ムスいてハ
月ツキ乃ノ霜シロ雪ユキ冬フユにははこめら
代ヨ黒クロもカミあまカミりカミとカミてハカミあまカミりカミを
あまカミりカミすカミるカミようカミもカミるカミこカミ

向ユク後マはマゆユクすユクあユクまユクりユクふユクこユクのユク婦ユクらユクふ
他タ乃ノ田タはタいタ人タといタふタ字タあタとタしタるタ
山ヤマ敷シはシ巖イハ岩イハなイハもイハあイハりイハきイハ
さサそソのソ遊ユ津ツ瀬セ小コ野ノのノ炭スミ焼ヤキ
賤シ物モノ乃ノ冬フユ字ジハハ赤アカ三サン才サイとトまマらラふフ
冬ホツ夕ツクやヤ脇ワキハハわワりリてテさサらラりリむム
鈴スズ麻カ沓カやヤ本ソ曾ソ沓ソ徳トク野ノ沓ソ小コ野ノ眞マコト

野れおこもり
降雪ハ懐紙一よりのなり
白のよひのめせ相乃雪
年一白の速懐一りおせし
きさふの^{チカ}を^{キナ}も^{キナ}も
後よりつくとり付る

代ノ世の字ぬ白^{チカ}一胸乃月
鳥羽玉乃夜より^{キナ}付きや
寤^{チカ}も^{キナ}も^{キナ}も
夜^{チカ}も^{キナ}も^{キナ}も
湖ノ水ハも^{キナ}も^{キナ}も
松風乃里ハも^{キナ}も^{キナ}も

よき葉の田里も植地乃ゆり
いやはいと付を打つくもれと
教字よ教字いつ付人き
花乃山うて様よふもあ
と雲乃山うてよせ八様り
野のまれば振りの侍流あるは
まじりめまに海林の松なり
梅みの花咲実なり紅葉の
くれみ井さそへくもあつ梅
月を友花を友とていふ人を
人偏りぬ心なり
むと宿月試宿とて他人を
者不のあつゆり
月の宿花の宿とてすむるは

香^{キヨ}不^{シヨ}乃^ノ子^シおそ^オあ^アる^ル姫^キふ^フ一^{イチ}
川^{カハ}押^{ヨス}も^モく^クく^クも^モ後^キし^シら^ラも^モ
用^{ヨウ}の^ノり^リ弓^{ユウ}乃^ノ神^{カミ}や^ヤ本^ホす^スと^ト
迄^ニと^トも^モさ^サと^トも^モう^ウれ^レる^ル場^バふ^フ
本^ホ下^カは^カも^モあ^アり^リ一^{イチ}と^トも^モ
名^ナの^ノあ^アり^リは^ハま^マの^ノあ^アり^リと^ト付^ツけ^ケら^ラる^ル
申^{マウ}れ^レ外^{ソト}の^ノあ^アり^リは^ハい^イの^ノあ^アり^リ

い^イ道^{ミチ}の^ノあ^アり^リは^ハい^イの^ノあ^アり^リ
不^フ審^{シン}れ^レぬ^ヌは^ハい^イの^ノあ^アり^リ
此^{コノ}方^{カタ}は^ハい^イの^ノあ^アり^リ
産^{ウツ}の^ノあ^アり^リは^ハい^イの^ノあ^アり^リ
新^{シン}式^{シキ}之^ノあ^アり^リは^ハい^イの^ノあ^アり^リ
氏^{ウヂ}部^ベ入^イる^ルの^ノあ^アり^リは^ハい^イの^ノあ^アり^リ

上古中古古苗代はなと不_レ二を_一
之_レ然者自一象殿_レ沙書_レ出_レぬ_レ
者也十四十_レ七_レ之道_レと_レし_レ
砌_レの_レや_レの_レ可_レ似_レ敢_レと_レと_レし_レ
育_レく

十二月花鳥の考 定家曰

春三月柳_レの_レく_レよ_レぬ_レ乃_レ花

く_レく_レいと_レ雉_キ子_スや_レも_レ雀_ガも_レ也

夏三月卯_レを_レく_レら_レ花_エ桂_レ子_コも

山_レの_レく_レき_レ次_ク水_イ鷓_ト鴒_ウの_レ鳥_ト

秋三月丙_レの_レ女_ラ鳥_ミ花_ニ杖_キ花_ス鳥_キ

か_レく_レき_レ鳥_ウく_レら_レり_ラ

冬三月さく菊キク枇杷ビ梅ウメ花
鶯ツル鳴りさぬり子コ鳥トリ

婿キヲよきなるぬるニうニうニうニうニ
涙ナミダとらす鐘カネのこゝろ
梅ウメ木キや麻アサのきこゝろニ（野ノれ
夕ユフの空ソラあり人ヒトれレるルあア

詠エイとらあア癒ユいイこコらラあアらラ夜ヤ
命イノチれレきキ由ユらラ申マシとトまマうウらラ心ココロ

連秋付合物岩

すれはらるる

あすき スニキ せれさき

い ヤケ 焼野 為 本すき

か ヤケ 焼す スニキ られ 為 初すき

ま スニキ すとの 為

9 スニキ 皮 スニキ 付 スニキ あり スニキ ち裏ニ

神カミノ名ナク

雲クモノ神カミ 霞カスミノ神カミ 雨アメノ神カミ

すさノ神カミ まマノ神カミ おオノ神カミ

くさクサノ神カミ あアノ神カミ

花ハナノ神カミ 月ツキノ神カミ くクノ神カミ

衣ユロモノ神カミ あアノ神カミ はハノ神カミ

ろロノ神カミ 星ホシノ神カミ 深フカノ神カミ

のノ神カミ けケノ神カミ けケノ神カミ

のノ神カミ けケノ神カミ けケノ神カミ

名ナノ神カミ ひヒノ神カミ のノ神カミ

竹タケノ神カミ

くれクレノ神カミ ちチノ神カミ のノ神カミ

竹タケノ神カミ のノ神カミ 戸ドノ神カミ

竹タケノ神カミ のノ神カミ のノ神カミ

鏡カミ多タ々タ

あかりの鏡カミ 鏡カミのちりり

水カミの鏡カミ 飛カミ足カミの鏡カミ 雪カミの鏡カミ

の鏡カミの鏡カミ 月の鏡カミ

の鏡カミの鏡カミ 氷カミの鏡カミ

の鏡カミの鏡カミ

いね楊カミの鏡カミ 家カミの鏡カミ

いささか山カミの鏡カミ ねの鏡カミ

墨カミ染カミ楊カミの鏡カミ 田カミの鏡カミ

ささか谷カミの鏡カミ 八カミ重カミの鏡カミ

一カミ室カミ楊カミの鏡カミ 庭カミの鏡カミ

楊カミ櫛カミの鏡カミ

ささか衣カミの鏡カミ

松ちりし

唐松 一夜松 一本のまつ

玉志 志との松 くの松の松

いとの松 箱崎の松 巨岩の松

貴僧の松 ぬねの松 門の志

岩代イハノヨの松 びすの松 松れ戸

松れ家アト 子日の松 娘ヒメ子コ松

相アヒまの松 小松 今イマ乃ノ松ノちり

ちりれ松 ちりれ松

柏カシバ多タく

むりし 志シ本ホン柏カシバ ちりし

志シりし ちりし びヒりし

氷の柏

菅スガちりし

ゆすけ スガ 小菅 スガ

菅束 スガ すけ スガ 菅束 スガ

衣 イ

一重衣 イ 衣のころも イ 衣 イ

麻衣 イ 衣のころも イ 衣 イ

衣 イ 賤衣 イ 衣 イ

衣 イ 衣 イ

手枕 テ 枕 マ 枕 マ

枕 マ 枕 マ 枕 マ

すし枕 マ 枕 マ 枕 マ

草枕 マ 浪枕 マ 変妙の枕 マ 枕 マ

き マ

弘 マ

蜜小瓶 けり母 すてき母

す瓶 棚玉小瓶 多瓶

かしの母 かしこ母 鶉の母

紅葉瓶 木葉の母 枝の母

くまの 草瓶 葉の母

うき瓶 衣の母 入瓶

やまの 雲の母 色りの母

花のあはれ

芥のろく

田のり 根のり

せりの 梅のり

井のり

寺井 古井 あり井

井のり 井のり

夕十
橋ろく

年
軽代橋 庭乃橋 花ららるる

十
奇地らるる雪

ツハキ
橋ろく

ツハキ
玉椿 白玉椿 八子代乃椿

ヤツラフ
八尾の橋 ぼろく橋

宿ろく

オモキ
若生乃宿 浅茅生乃宿

夕十
夕十乃宿 宇治の申乃宿

じく
じく乃宿 ちの宿 月の宿

苑の宿 ちの宿 ちの宿

春の分

正月 春豆 朝玉乃年

空方とねむ ちの宿 ちの宿

つらみ 人の日 ぬれしよま

初子 子日 小松とひく

七草 ナカク 草のくむ草

シタモ 下筋の草のきせ草を(のり)

せり ちり葉くちりまらくちり

らる(は)すまれ草すまれ

か(は)り ちり ちり

雪れさる 雪降り 雪れさる

初まぬ 水うらと 少とらぬ

氷さゆり 梅 木れり 柳

野柳 ヤヤ

二月

ふぬゆき 二月乃夜 ヨシ

佛の列 イセ 仏乃きけ 松の列

花梅 在明梅

三月

やまやまの ウツクヒス とうきき モト 多 ス 取

鶯 モト 百千鳥 ス 少 ス 乃 ス 巢

きりぎりす ヒ けり ハカリ

白尾の鶯 キ けり キ おの キ 鶯

鶯 キ けり キ 鶯 キ けり キ 鶯

きりぎりす キ 鶯 キ けり キ の キ けり キ

鶯 キ 鶯 キ 胡蝶 キ 鶯 キ あら キ 梅

いし キ けり キ こ キ あ キ せ キ や キ の キ あ キ 申

梅 キ 鶯 キ けり キ の キ 鶯 キ 名 キ 梅 キ の キ 鶯

あ キ 梅 キ ま キ く キ 鶯 キ 代 キ 田 キ けり キ

来 キ 日 キ 来 キ 日 キ 臘 キ 月 キ 長 キ 閑 キ

い キ 所 キ 鶯 キ 友 キ 鶯 キ 冬 キ

卯月 亥分

夜久 とろろ 緑乃袖 扇

喜葉の簾 ふかし 卯花 うはな 了依木

とろ とろ の いさく 茂木 もへ 夜木 よこ 立 た

喜樹 アヲ 喜楓 イヲ 神奈 ミツリ 柳 サカキ

喜あ と 喜 と の な 喜 な 柳 な

水 ク 水 ク 水 ク 水 ク 水 ク 水 ク 水 ク 水 ク

丑月

み月 み 雨 あめ 梅 うめ 乃 の 雨 あめ

橋 ハシ 櫻 ウツギ 葛 クワ 蒲 ヤブ 卯 う 乃 の 雨 あめ

藥 ク 乃 の 子 こ 乃 の 竹 たけ 乃 の 雨 あめ 乃 の 雨 あめ

乃 の 子 こ 乃 の 竹 たけ 乃 の 雨 あめ 乃 の 雨 あめ

乃 の 子 こ 乃 の 竹 たけ 乃 の 雨 あめ 乃 の 雨 あめ

乃 の 子 こ 乃 の 竹 たけ 乃 の 雨 あめ 乃 の 雨 あめ

六月

しやんせつ せいのなす 蟬
夕立 蟬 螢 蚊 のしん
あせ せう ねり ねり
くされ ねり 夕立 せいのなす
さくしん せいのなす ねり
さくしん せいのなす ねり

あせ せいのなす ねり
ねり せいのなす ねり
ねり せいのなす ねり

七月 秋分

初秋 一葉 ちり 初あ
くしん せいのなす ねり
ねり せいのなす ねり

セタツカケの月

梅の紅葉 すすくは 吹つけ草

八月

萩 萩 萩 女房花

菊の花 じんたり くらり

子持花 志もつき花 すまみ草

菊の花 早編

田守 田さ ころも

野のくまれ 草 父 存

父考 初きりり 小梅

あしはる

九月

鴨 鴨 ときをりつ 鶴

やめり 麻 すまみ 塔

夜しの 虫 ね虫 かせいの
終虫 三つ〜と〜と〜と
等身海虫 日〜〜〜と虫
けいこの虫 もおすむ虫

野分吹 紅葉の散揚の紅葉
秋の雨 露 草をれ文はく
柳の枝 梢の秋 木の葉のころ

粟 木れ実 椎 木をれ〜れ
柿の紅葉 葛の紅葉 葉の紅葉
葉 たての舟 蕪葉の舟
あひあひ ちちあせ すすり
ひらひら ちちあせ すすり
あひあひ ちちあせ すすり

鳴子

十月 冬分

神月 神月 小春

木葉 落葉 しみぢ

木のく 枯野 草のけ

木枯風 寒さ 雨

氷 ぼろ 月の霜 月の雪

鶯 鶯 鶯 鶯

十一月

霜月 霜こりの月 冬こり

埋火 細代 神系 庭火

十二月

忘人 年九四 年九六

冬梅 美徳 三のあり

[Faint, mostly illegible handwritten text on the right page]

禁中キナチュウ

とくは少くも吉野に昔カウラ 藤子フジコ

はとけりひく大君 大内

大内とよかね山 大内人オウチノヒト

おまのよ人 十倉ききみやけい

氏子ウヂコ 氏教ウヂカウ 佛庭ブツテイ

作シ 簀ス 湯階ユウカウ 湯ユ 湯ユ 湯ユ

二七

二六

百敷ヒヤクシキ

わくしやく

勅チク

ちうりくを 集乃ゆりて衣

玉れ極り 皇々々々極つて

極つ極つて 今片下 極つて

義ギ呼コ

神シ祇キ

神

神代

宮

湯ユ法ホウ

交カウ庭テイ

交木

交人

湯山

水庭

水志

湯戸

湯池

湯衣

湯衣

井垣

湯田ニメ屋ヤ石シ

玉垣タマカキ

金垣カネカキ

申ウケ志シ

申ウケ志シ

志シ

申ウケ志シ

志シ

志シ

あとのまて

神カミ樂ラク

ちうり

手テ向ムカヒ

めく

利リ生シ

心ココロ

ちうい 疑乃法華 花

多升 妙祿ねさぬうはく

水うの神 せうけ神

釈教

佛 法 法の所 法の庭

法のる 何をこ 釈迦 西より

みうく 罪 科 釈教

寺 行 行 行

山寺 入 入 入

極 極 極

意分

約 約 約 別

子ぬく 母ふつて 母

情 情 情 情

多^タ人^{ヒト} 妻^{ツメ} 人^{ヒト} 妻^{ツメ}

思^{オモ}ひ なる なる

神^{カミ}の なる かの こと じつ した

小^コの なる なる なる

面^{オモ}鏡^{カガミ} なる なる なる

又^{マタ} なる なる なる

恨^{ウラミ} なる 神^{カミ}の なる なる

枕^{マクら}香^カ

哀^{アイ}傷^{ケガレ}

さ^サの なる なる なる

あ^アの なる なる なる

志^シの なる なる なる

夏^{ナツ}の なる なる なる

平^ヘの なる なる なる

林

未懷

世 聖世

世間

ほ世

前世

世を控

棄人

男を控 男をいふ

病の男

男を欺く 養の男

子と控

生死 親子 老 年 所

年をいふ ころい

昔

あし びま

あし 増

たから 福 ぬれらむ

山 龍 神

山 峯 嶽 高 巖 尾

谷 へ 麓 山 中 忌

洞 坂 馬

山歌用

遊ユキ

滝川タキ

炭竈スミ

物モノ木キ

仙人センニン

炭焼スミヤキ

井用の水イダノミヅ

水ミヅ色イロ神カミ

海ウミ

浦ウラ

海原ウミハラ

汀ツツ

奥津ウミツ

沖ウチ

儀イ

者モノ

活イキ

奇オモシロイ

干ヒ海ウミ

濱ハマ

川カハ

池イケ

溝ミヅ

淵フチ

水ミヅ色イロ

用ヨウ

浪ナミ

水ミヅ

塩シホ

湖ウミ

塩シホ

屋ヤ

藻モ塩シホ

水ミヅ色イロ神カミ用ヨウ糸イト

水ミヅ

流ナガレ

糸イト

海人 細 藻類

濱柚 薑 鴨

都多 多鷄 全

貝 貝 貝 貝 貝

梅の花貝 貝 貝 貝

貝 貝 貝 貝

貝 貝 貝 貝

貝 貝 貝 貝

貝 貝

貝 貝

貝 貝

貝 貝

貝 貝

貝 貝

貝 貝

貝 貝

家 庭 店 屋 飛

梅^{スミカ} 室^{ムロ} 軒^{ノキ} 戸^ド 窓^{マド}

妻^メ 戸^ド 門^{カド} 垣^{カキ} 里^{サト} 周^{マヒ} 屋^ヤ

開^{ヒラ} 戸^ド 竹^{タケ} 屋^ヤ 松^{マツ} 戸^ド 秋^{アキ} 戸^ド

橋^{ハシ} 戸^ド 卯^ウ 面^{オモ} 宿^{ヤド} 隣^{トナリ}

村^{ムラ} 屋^ヤ 小^コ 簷^ス 寸^ス 丈^シ 尺^シ 餘^リ

後^{ノチ} 分^{ノチ}

か^カ り^リ 衣^イ 富^{トモ} や^ヤ け^ケ り^リ 部^ブ

古^コ 淵^ノ 我^ワ の^ノ 芳^{ヨシ} 草^{クサ} 枕^{マク} 開^{ヒラ}

冥^ミ 屋^ヤ 舟^{フネ} 舟^{フネ} 泊^{トモ} 門^{カド} 出^{イデ}

弱^{ユク}

人^{ヒト} 倫^{リン} 分^{ブン}

人^{ヒト} 我^ワ 誰^{ナニ} 親^{オヤ} 子^コ

あ^ア り^リ 木^キ け^ケ り^リ 葉^{エフ} け^ケ り^リ

草^{クサ} け^ケ り^リ 志^シ の^ノ 賤^シ の^ノ 女^メ

やまのうねり ぼろり

たさのうねり ぼろりの霧

友 田島 山島 さかべのうねり

ひまのうねり ぼろり

いりー ぼろり

宵 夜分

宵 山の中 ぼろり

暁 ぼろり

暁 ぼろり

暁 ぼろり

暁 ぼろり

弓神

ゆかり ぼろり

弓用

とすしるふりるひく
たにとりり

西

秋の雨 春乃の雨

花の雨 初雨 合ラサ

三月の雨 本枯の雨 カラシ 水落の雨

長雨 打雨 ツク 夕雨 ツク

長ぬ 雲ぬ

連奇 付合

花 トア 梅 梅 吉野の雨

梅 トア 花 吉野・柳

柳 トア 梅 ちりり

朽木 クキ

鄧 濁 トウ

朽岩 クイワ

火 ヒ

松 マツ

川の世 カノヨ

松 マツ

田 タ

松 マツ

松 マツ

子 コ

山 ヤマ

恒 トコ

秋 アキ

亭 テイ

三 サン

横 ヨコ

いかり 神

檜 ヒノ

原 ハラ

初 ハツ

桐 キリ

田 タ

田 タ

秋 アキ

松 マツ

田 タ

徳 トク

河 カ

梨 リ

田 タ

人 ヒト

田 タ

由三子

木葉トモ いろさちあはれ

秋のくれ

昔コト 葉は ぼんじり 志こころ

萩はぎ 由よし 山やま 野の

秋あき 葉は 紅葉もみぢ うらみ

薄うす 衣ぎ 袖そで ちの宿しゆく 女メ

女メ 鳥トリ 花はな くく 袖そで ささ 野の 萩はぎ 根ね 山やま

秋あき の 野の ささ の 野の

花はな ちち の 袖そで なが

うら

浅あさ 草くさ 宿しゆく ちち の 里さと へん

花はな ちち の 野の ささ の 野の

うら

う田 二つりくは

麻^{アサ} 交^マ川^{カハ}乃^ノを^ヲ よも糸

女^メき^キ梯^{ハシ}

葛^{アヤ}蒲^メ 枕^{マク}袖^{スエ}ぬ^ヌの^ノこ^コも^モ

川^{カハ} 物^{モノ}を^ヲ

其^{コノ}藤^{トウ} 女^メの^ノあ^アき^キの^ノぬ^ヌい^イ

あ^アも^モの^ノゆ^ユの^ノゆ^ユの^ノゆ^ユ

萩^{ハギ} 女^メの^ノあ^アき^キの^ノぬ^ヌい^イ

女^メの^ノあ^アき^キ

葛^{アヤ}の^ノ糸^{イト} 二^ニつ^ツり^リく^クは

女^メの^ノあ^アき^キの^ノぬ^ヌい^イ

其^{コノ}藤^{トウ} 女^メの^ノあ^アき^キの^ノぬ^ヌい^イ

女^メの^ノあ^アき^キ

其^{コノ}藤^{トウ} 女^メの^ノあ^アき^キの^ノぬ^ヌい^イ

入^イ江^エ

解さく 磁を 四十

良の ハ かく 多り 毎く

い ハ 心 ハ くら

い ハ 祿 ハ 方 秋 夕 付 かく 女 甲 子

苗 ハ 少 立 又 月 田 子

み ハ ころ

世 カ 宣 尔 ハ 少 みの 面 ニ 就 カ 乃 文

菊 ハ 田 子 少 ころ ころ

山 ハ ころ 山 海

福 ハ ぬ ころ ハ 中 少 ころ 池 少 ころ 子

く ハ ころ

比 ハ ころ ハ 筆 花 下 水

す ハ ころ ハ 美 器

す ハ ぬ れ ハ 美 器 少 ころ ハ 美 器

わづらひあり 拙くは。世のつら
いものあり せんじのつらさる。うら

とくち

すけい 福多のつらさる 世

さるものつらさる 毎まに

つらさる

つらさるものつらさる 毎まに

つらさるものつらさる 毎まに

つらさるものつらさる 毎まに

つらさる

つらさるものつらさる 毎まに

つらさるものつらさる 毎まに

つらさるものつらさる 毎まに

つらさる

夕ゆふ不ふ夏なつ車くるまたうられし

ああららなな

ゆゆららききゆゆららくく

福ふくすすりりれれままぬぬ 望のぞみみ

ゆゆににぬぬとと山やま一ひと葉は

まま竹たけたたまま人ひと世よ中ちゆうゆゆ

くくれれ行ゆけけいい矣や世よ中ちゆうああたた

七しち夕ゆふ一ひと葉はちちききりりかかささたたのの橋はし

水みづののここ

嶽たけ伊い約やく冨ふ士し吉きち野の伊い山さん

音ね響きやう伊い子こ伊い約やく冨ふ士し

伊い子こああらら

星ほし栲こう花か菊きく花かああららつつきき

花はな舟ふね落おち都みやこ奉ほう

存^リ存^リ大^ナ山^{ヤマ}

富士^{フジ} 中^{ナカ}空^{カラ} 幸^{サイ}山^{ヤマ} 夕^{タタ}夕^{タタ}

阿^ア〜ぬ雪^{ユキ} 田^タ子^コの〜

幸^{サイ}山^{ヤマ} 富士^{フジ} 雪^{ユキ} 阿^アの^ノ松^{マツ}原^{ハラ}

思^{オモ}の^ノ名^ナ 清^{キヨ}草^{クサ} 紫^{ムラサキ} 流^{ナガ}泉^{イハ}

嵐^{アザナ}山^{ヤマ} 洗^{サハ} 漱^{ソウ} 夕^{タタ}夕^{タタ} 杖^{ツエ}の^ノ影^{カゲ}

在^ア的^リ乃^ノ月^{ツキ}

常^{トコ}の^ノ梅^{ウメ} 用^{ヨウ} 沙^{シャ} 谷^ヤ

百^{ヒャク}舌^{ゲツ}の^ノ草^{クサ} 若^{ニギハヤヒ}く^ク 君^{キミ}の^ノ影^{カゲ}

是^{コノ}山^{ヤマ}

ひん^{ヒン}り^リの^ノあ^アは^ハ野^ノ あり^{アリ}の^ノ山^{ヤマ}

い^イの^ノけ^ケの^ノあ^アは^ハ

あ^アの^ノ野^ノ あり^{アリ}の^ノ山^{ヤマ}

山^{ヤマ} 麓^ノの^ノあ^アは^ハ

ふらりき

鶺鴒ウツリ 床カより小鶺鴒カ かし

野キ かしら 秋乃夕暮

海ウミ

鶺鴒ウツリ かしら 秋乃夕暮

鶺鴒ウツリ かしら 秋乃夕暮

うらりき

鬼オニ 谷一 西 秋乃夕暮

鶺鴒ウツリ かしら 秋乃夕暮

鶺鴒ウツリ かしら 秋乃夕暮

山ヤマ かしら 秋乃夕暮

おろ

鶺鴒ウツリ かしら 秋乃夕暮

秋乃夕暮

ツル 鷗 井 嶋 林

福 子 島

タケ 鷗 浦 塩 くれ

あ

カリ 存 収 海

う

子 島 福 海 磯

(Faint bleed-through text)

お 川

波

カモ 鴨 小 池

お 池

あ

お 池 小 池

林の響こゝろ 林のりひり
ゆもれ響こゝろ 元より

小響こゝろのうらやみ

響こゝろ 野よりけうこ かなり

たまたまのたし すくひます

しんぶん ぶねん けうこ かなり

麻かの子こ 響こゝろ かなり なる

麻か 田こゝろ 田こゝろ 響こゝろ

猪こゝろ 響こゝろ かなり 田こゝろ

かなり かなり かなり かなり

犬こゝろ かなり かなり かなり

帆こゝろ かなり かなり かなり

かなり かなり かなり かなり

かなり かなり

虎^{トラ} 石^{イシ} 切り^{キリ} 國^{クニ} 人^{ヒト} 行^{ユク} 遊^{ユク} 竹^{タケ}
羊^{ヒツジ} 下^{シタ} の花^{ハナ} 河^{カハ} の水^{ミヅ} ち^チ ち^チ
駒^{ウマ} 走^{ハシ} る 雪^{ユキ} 花^{ハナ} 結^{ムス} ぶ

牛^{ウシ} 由^ユ の 湯^ユ 車^{クルマ} 引^{ヒキ} 野^ノ の

親^{オヤ} の 子^コ 塔^{ツタ}
親^{オヤ} の 儀^イ 温^ユ かく 糸^{イト}

鯉^{コイ} の 子^コ 後^{ノチ}
鯉^{コイ} の 子^コ 田^タ の 子^コ

朝^{アサ} の 雲^{クモ} 橋^{ハシ} の 水^{ミヅ} の 子^コ の 子^コ

蟹^{カニ} の 子^コ 舟^{フネ} の 子^コ 河^{カハ} の 子^コ

た 此^{ココ} の 子^コ 此^{ココ} の 子^コ

矢^ナは^ハら^ハあ^ハる

太^タ刀^ハさ^ハ乃^ハ中^ナ山^ノ山^ノ川^ノ

大^オ内^ノ君^ノ女^ノ采^ノみ^ノく

皇^ス代^ハさ^ハて^ハみ^ノら^ハぬ^ハ山

百^モ敷^ノ人^ノ大^ハ人^ノの^ハと

花^ハ柳^ハ楊^ハ四^ハ方^ハは^ハる

堀^ホ川^ノさ^ハの^ハ山^ノさ^ハる

白^シ川^ノ秋^ハ風^ハの^ハ

磯^イ部^ノの^ハ山^ノ山^ノ山^ノ

野^ノ火^ハを^ハ小^ハ集^ハる

山^ハの^ハ山^ノ山^ノ山^ノ

山^ハの^ハ山^ノ山^ノ山^ノ

山^ハの^ハ山^ノ山^ノ山^ノ

大井河 月乃入

松尾 鳳山 那 子代

大井河 那 寸息のうら 紅葉

本義

桂河 樹津丸里 名をれり

くし

清次 遊 檜

大比穀 横川 寺 名をれり

横川 杖 名をれり 寺

浅 桑 車 舟 後 の うら

多 持 杖 乃 山 田 名をれり

伏見 深草の里 田井

深草 山乃橋 名をれり 寸息

本橋 名をれり 関 伏見

宇治ウヂ 浮舟ウヅフネ 飛虎トビコ 赤坂アカカ 赤坂アカカ

これ部コレベ 春日カスガ ことれつコレツ

春日カスガ 神カミ 坂サカ ことれの野コレノノ

長谷ハセ 寺テ 後ノチ 徳トク 永エイ じジ

立田タテタ 紅葉カキ 鶏トリ 三ミ 室ムロ 入イ ちチ

奥ウチ 津ツ 志シ づヅ 三ミ 室ムロ 入イ ちチ

三ミ 室ムロ 入イ ちチ 神カミ 室ムロ 入イ ちチ

三ミ 室ムロ 入イ ちチ 秋アキ 神カミ 久ク 代ダイ 寺テ 中ナカ 方カタ つツ 三ミ 室ムロ 入イ ちチ

十トウ 市シ 代ダイ 里リ 三ミ 室ムロ 入イ ちチ 夜ヨ ちチ ちチ

葛城山カサガキ 三ミ 室ムロ 入イ ちチ 佛ブツ 一イチ 寺テ

三ミ 室ムロ 入イ ちチ

寺テ 久ク 代ダイ 寺テ 三ミ 室ムロ 入イ ちチ

三ミ 室ムロ 入イ ちチ 寺テ 三ミ 室ムロ 入イ ちチ

三ミ 室ムロ 入イ ちチ

吉野よしの 花梅はなうめ 湖うみ 緑ろく のみさけ

りろこ

志賀しが 久ひさ 部べ。一松いつしょう 山やま 之の

難波なにわ 寺てら 中なか 長なが の濱はま 部べ

梅江

佐吉さきち 祇ぎ 之の 松しょう 久ひさ 久ひさ

君きみ 代しろ

浪磨なみのり 部べ 波なみ の 山やま 之の 松しょう

つなれ橋

的てき 石いし 月つき 長なが 葉は 戸と 之の

音庫ねくら 乃の の 空そら 之の 山やま 海うみ

西にし 之の 山やま 之の 月つき の 入いり 三さん 年ねん に ぬ

飛と 鳥とり 川がわ 之の 山やま 海うみ

少すく 之の 山やま 海うみ

三の用鳥のあつらふ 水方其浦 鳴上

水方其浦 墮ちたれ入わし魚

妹嫁川 多れて、吉野山中にわら

相場の実 秋 弱 走 升

かえりて実 秋風をゆく 表夜りる

不破実 板 意の くらら

立田用 鶏 もみら

鈴麻実 ありききき 神海山

流下南 都 入野 くらり山

和屋用 びり せ くらり山

かりの森の井

湯見の実 寺 陸 くらり山 くらり山

水間実 八 くらり山 くらり山

五十三

六の美 ミ 花 ハナ 草 クサ 木 キ 石 イシ 土 ツチ 水 ミヅ 火 ヒ 風 カゼ 雲 クモ 霧 キリ 雨 アメ 雪 ユキ 霜 しも 露 つゆ 汗 あせ 涙 なみだ 血 ち 肉 にく 骨 ほね 皮 かわ 毛 け 髪 かみ 爪 つめ 指 ゆび 手 て 足 あし 腰 こし 背 せ 肩 かた 腕 うで 肘 ひじ 膝 ひざ 足 あし 踵 かかと 唇 くちびる 舌 しん 歯 は 目 め 鼻 はな 口 くち 喉 のど 心 こころ 肝 かん 胆 たん 脾 ひ 肺 はい 腎 じん 膀胱 ぼうこう 大腸 だいちょう 小腸 せうちょう 胃 い 腸 ちよう 便 べん 尿 せう 汗 あせ 涙 なみだ 血 ち 肉 にく 骨 ほね 皮 かわ 毛 け 髪 かみ 爪 つめ 指 ゆび 手 て 足 あし 腰 こし 背 せ 肩 かた 腕 うで 肘 ひじ 膝 ひざ 足 あし 踵 かかと 唇 くちびる 舌 しん 歯 は 目 め 鼻 はな 口 くち 喉 のど 心 こころ 肝 かん 胆 たん 脾 ひ 肺 はい 腎 じん 膀胱 ぼうこう 大腸 だいちょう 小腸 せうちょう 胃 い 腸 ちよう 便 べん 尿 せう

月 ツキ 松竹梅 しょうちくばい

古入付白

佐伯者宗祇也

車のまきよのまきよ〜ゆりさ

人れらるる場の目取り時にて 宗砌
いも人の向の文王大公房とえて車
の右よのまきよゆりさひり〜事たり
けりか右^{ウマコ}進のる場の目取りれ申に
そりまきり仍右^テとりまきよはまきん

とてさ場ととり車ハ物入車多り
は右^{ウマコ}進のる場の目取りれ目むらひ
よとては女車とてみともあはし
と葉卒のまきよ〜いさ〜りて物入
車よまきり〜まきよ〜り物入はやく
みらもゆ〜ゆ〜のまきよを可る
て〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

神妙の事あり

くももあめ人そりいり

我と方しほの月のとまて

そと花の回文とれ物カのえ物と

りせ一何然とあすり何然とあ

と賢人トとえ物と一ととと

て大ととと一も也然と月カの梅

とよ物ありされとととて何月梅を

我と方しの梅の月のとまああり

いふちよて大梅とととと人そり

ととと甘梅のいあ句定文と

公のあよりととと人たれにと事あり

しととととととととととととと

いふちよ

五十一
桃とえり人といあきうふ乃無は乃
事に九をせりゆして卒とて後
ふつ秋う身ととよよく付ゆらよ
や法氏物語のやれ難句の時大
切也芳の難意の何よむき一無
さうやうはさきて何とさくか
くらあは物語の本さうり

おらふ秘つひのふもさみ
とらあ矢乃いさうさうつひ
かこしとととらふおをせり
芳よみさしれわらうの耳れと後
うれいらととととととととと
願ひさしととととととととと
とまのつらむおのふし川のり

丸をすのこらぬういといはることも矢
矢と相違していふ候也らん其のらして
とほむらうらふはあつたつたつたつた
ゆん

しほき月よひのうらうら
しほき月よひのうらうら

しほき月よひのうらうら胸よ

の故國のまきりいれよとい早年のあせ
蔵立と秘ふまうらうら

秋のたつとつたつたつた

筆そこれくらふれ年のまうらうら

は朽木と云ふい志并てあは用や

筆の朽て筆をさうえんの事なり

さうての筆れ朽てさうくこととるれ

向^{モナシ}勿^{モナシ}海也。蚤^{モナシ}の身^{モナシ}あつ物也。こ^{モナシ}思^{モナシ}つよ
は^{モナシ}行^{モナシ}つる^{モナシ}と^{モナシ}付^{モナシ}ち^{モナシ}り^{モナシ}。何^{モナシ}こ^{モナシ}つ^{モナシ}り^{モナシ}も^{モナシ}た
ま^{モナシ}し^{モナシ}も

別^{モナシ}海^{モナシ}の^{モナシ}さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て
生^{モナシ}る^{モナシ}草^{モナシ}の^{モナシ}さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て
これ^{モナシ}に^{モナシ}は^{モナシ}ら^{モナシ}る^{モナシ}よ^{モナシ}別^{モナシ}海^{モナシ}の^{モナシ}さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て
の^{モナシ}枯^{モナシ}風^{モナシ}の^{モナシ}さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て

さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て
と^{モナシ}ん^{モナシ}と^{モナシ}中^{モナシ}の^{モナシ}さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て
さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て
の^{モナシ}葉^{モナシ}の^{モナシ}さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て
め^{モナシ}い^{モナシ}と^{モナシ}別^{モナシ}海^{モナシ}の^{モナシ}さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て
つ^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て^{モナシ}。は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て
さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て
さ^{モナシ}へ^{モナシ}は^{モナシ}あ^{モナシ}め^{モナシ}に^{モナシ}し^{モナシ}り^{モナシ}つ^{モナシ}て

古^{モナシ}世^{モナシ}

くしゆ〜とそとゑさしよそいゆ

衆こつ同なまれららんとを

衆のしとやう〜行り暮ま〜もね

大〜こ〜ち〜れら〜も〜れれ他者

のち〜いよ〜お〜せら〜も〜枝他者

は衆のしとを〜も〜のあれと〜

いせは事い〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜この

す由井れ〜ま〜風ま衆の〜〜〜

見せられい〜文何〜ら〜ら〜ら〜

とそゆ〜

おそそひ〜ら〜ら〜ら〜

風ぬらぬ〜ら〜ら〜ら〜

そい〜橋あ〜ま〜ら〜ら〜ら〜

も風ちぬ世〜ら〜ら〜ら〜

風と^カはらふと^カはらふ^カの^カ梅と^カあ^カく^カ
見んと^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ
あ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ

福のりく^カあ^カ乃^カあ^カは^カら^カう^カも^カハ

くれ^カ行^カの^カこれ^カは^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ

は^カ異^カ行^カの^カこれ^カは^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ
也^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ

え^カい^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ

あ^カい^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ

あ^カい^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ

あ^カい^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ

あ^カい^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ

あ^カい^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ

あ^カい^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カあ^カく^カ

うもむらひくわ^イ年^サ妙^カの^カ存^リとあ
り^イ事^ト。な^ハ。ま^ハ。う^リう^リて^シよ^クま^キる^ス
の^イし^テま^ハら^ハり^ト也

^ナイ^クの^シ袖^ハに^シて^ハ也

物^ナむ^ラは^ハと^ハん^タん^タり^ト

大^ト人^トは^ハに^ハ夜^トに^ハま^キぬ^カぬ^カれ^ハ

の^イし^テま^ハら^ハり^ト也

う^モむ^ラひ^クわ^イ年^サ妙^カの^カ存^リとあ

り^イ事^ト。な^ハ。ま^ハ。う^リう^リて^シよ^クま^キる^ス

の^イし^テま^ハら^ハり^ト也

う^モむ^ラひ^クわ^イ年^サ妙^カの^カ存^リとあ

り^イ事^ト。な^ハ。ま^ハ。う^リう^リて^シよ^クま^キる^ス

の^イし^テま^ハら^ハり^ト也

う^モむ^ラひ^クわ^イ年^サ妙^カの^カ存^リとあ

抱ひ方どしむもせぬ申さうさうと云
やまうー

〇ー〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

ふりしれまねあつ回す次入て 宗砌
解りしうかといふまの甚田は次は
かゝるう。初らも思つゝいふふ。う。
只人をもつとあれと云河とけん申れ

形習也流と云ふとれと。きてんをよ
相直とす。う。は。れ。ひ。て。う。を。ま。り
う。あ。ち。う。ら。ま。て。人。も。う。そ。あ。れ。と。
付傳り也。ま。う。の。辨。り。用。と。付傳り
事。大。事。と。申。傳り。い。ふ。も。う。れ。事。よ
て。を。傳り。ん

世よあまをてと力とくす人

さゆなり

まれば中^にに舟^もく^らひ

人^もく^らひ^は花^はは^らわ^らそ^と花^はは^らわ^らそ

花^はは^らわ^らに^は花^はは^らわ^られ^た又^もい^まり^し時

も^も只^もか^らく^らめ^てみ^る可^らず^らし^らし^らし^ら

され^ばま^れる^花は^らわ^らし^らし^らし^らし^ら

人^はは^らわ^らし^らし^らし^らし^らし^らし^ら

花^はは^らわ^らし^らし^らし^らし^らし^らし^ら

り^らら^らら^らら^ら

今^もく^らひ^は花^はは^らわ^らし^らし^らし^らし^らし^ら

わ^らわ^らの^人の^花は^らわ^らし^らし^らし^らし^らし^ら

い^はは^らわ^らし^らし^らし^らし^らし^らし^ら

く^らひ^は花^はは^らわ^らし^らし^らし^らし^らし^ら

め^れる^花は^らわ^らし^らし^らし^らし^らし^ら

うんまそと冷む^{タリ}人の面^{ツモカテ}氣のそあり
て人のこの^ア後さけ事いそ^ア教の
ゆここの月のも也^アうのと^アづら^アも^アそ
は^{カキ}報も^{カキ}ソ分^{カキ}が^{カキ}こ^{カキ}ま^{カキ}ま^{カキ}う^{カキ}。初^{カキ}のた
め^{カキ}の^{カキ}も^{カキ}付^{カキ}り^{カキ}も^{カキ}は^{カキ}信^{カキ}が^{カキ}ん^{カキ}信^{カキ}ん^{カキ}人
そ^{カキ}の^{カキ}あ^{カキ}る^{カキ}ん^{カキ}も^{カキ}ふ^{カキ}ら^{カキ}う^{カキ}信^{カキ}ん^{カキ}人
人^{カキ}の^{カキ}ゆ^{カキ}こ^{カキ}の^{カキ}か^{カキ}も^{カキ}も^{カキ}た^{カキ}ゆ^{カキ}ん^{カキ}と

孫^{カキ}あ^{カキ}り^{カキ}教^{カキ}の^{カキ}う^{カキ}ら^{カキ}に^{カキ}と^{カキ}の^{カキ}後^{カキ}さ^{カキ}り^{カキ}そ^{カキ} 宗^{カキ}初^{カキ}
の^{カキ}思^{カキ}う^{カキ}ね^{カキ}よ^{カキ}そ^{カキ}人^{カキ}と^{カキ}あ^{カキ}ひ^{カキ}な^{カキ}ら^{カキ}あ^{カキ}り^{カキ}そ^{カキ}る^{カキ}
う^{カキ}ら^{カキ}に^{カキ}ど^{カキ}ろ^{カキ}人^{カキ}よ^{カキ}あ^{カキ}れ^{カキ}は^{カキ}あ^{カキ}ら^{カキ}う^{カキ}場^{カキ}的^{カキ}の^{カキ}ま^{カキ}
た^{カキ}ゆ^{カキ}ら^{カキ}り^{カキ}と^{カキ}し^{カキ}と^{カキ}め^{カキ}し^{カキ}ら^{カキ}と^{カキ}し^{カキ}。思^{カキ}こ^{カキ}ら^{カキ}ぬ^{カキ}時^{カキ}
の^{カキ}う^{カキ}ら^{カキ}こ^{カキ}の^{カキ}あ^{カキ}の^{カキ}中^{カキ}れ^{カキ}人^{カキ}と^{カキ}た^{カキ}ゆ^{カキ}こ^{カキ}して^{カキ}ら^{カキ}
つ^{カキ}の^{カキ}人^{カキ}と^{カキ}い^{カキ}ひ^{カキ}ら^{カキ}も^{カキ}也^{カキ}。づ^{カキ}ら^{カキ}に^{カキ}あ^{カキ}ら^{カキ}ぬ^{カキ}
人^{カキ}の^{カキ}あ^{カキ}も^{カキ}也^{カキ}

月すこかり松風うめく

乃一人の影をうりきく夏えて 書は

心なまよふ人とみりおのしよに松の

うらされてぶなしくして。うらまが

めぬよとび一人の影を巨み被りてと

月すこかり松風うりおろしれ

久言語るひもや皮物語は月乃り

月のこもさしくして夏の夕らとせ

す。みきうのしよぬまらむらしてぞ

のこものこあられよこりのさうあが

つらうもむもしうげしひゆる也他を

そしんそやゆりし。むしうらみ

うらしくし。むしうらみ。びく。み

よ。面。向。う。め。も。は。り。也。は。な。り。ら。お。り

あせ

三つりつれ物とてとらむ^たく^はま^はらむ^はも
つゆもさしおちなむかゝら

おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量

おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量

おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量
おのれおのれにけむ^はお^はし^て 多量

備しこれの事一々ありぬ。我らも
松平の事ありと。あつて思
辨^ヒふもわが切替^{キリカ}とみせし事あり
の付替^{キカ}事ありと云々

我らを引こみおられしれ

おれいよと云ふ思ふ事あり

後生^{サト}因^イ乃^ノ女^メ六^ム年^{ネン}八^{ハチ}歳^{サイ}と万^{マン}葉^{エフ}にやゆ

也^ヤ以^イし^シ事^{コト}事^{コト}ありと云ふ事ありと云ふ事あり

げ二^ニ情^{ナリ}よ^ヨと云ふ事ありと云ふ事あり

誰^{ナニ}も^モと^トし^シわ^ワが^ガ事^{コト}と云ふ事あり

はれと云ふ事ありと云ふ事あり

あつて思ふ事あり

いふ事あり

しる事あり

けいせいしんせうのいふよは我の心ゆゑ
あつたけしむるがむとて海をぬけて
又人ともなく海をいひつゝいふ
わが海をぬけていふよへくはるの
契りぞい。我の心せうて。終り也
石見のう。れ。の。浪。を
人かう。れ。の。塩。を。い。て。心。敬

けいせいしんせうのいふよは我の心ゆゑ
あつたけしむるがむとて海をぬけて
又人ともなく海をいひつゝいふ
わが海をぬけていふよへくはるの
契りぞい。我の心せうて。終り也
石見のう。れ。の。浪。を
人かう。れ。の。塩。を。い。て。心。敬

の末は様福してせうくふいぬ梅
秋風と物多しとせめていふ
ひつ月とくくく福思儀と候つ
ふいふふふふふふふふふ
大いふふふ他者いふふふ
池とくくくくくくくくく
様福とくくくくくくくく

いふの付様福いふれはふふふ
池とくくくくくくくくく
池とくくくくくくくくく
りふふふふふふふふふ
外は面敷うふふふふふ
魚とくくくくくくくく

からふふふふふふふ

考のゆゑにわづらひ申す所の事なり
 此の世といふは昔の世なりといふは
 世の外れにありて人知らざれ申す
 心のちよきしものなりといふは
 俗也佛種後縁起のいふ事なり
 ともまりてるものなりといふは
 此の世にありてはありてはありては

前句の白^ロ言^{コト}の大意の事なりといふは
 せりてはありてはありてはありては
 およまの古^{コト}事^{コト}をそれと云ふといふ
 てはありてはありてはありてはありては
 といふは神さひぬといふは神^{ミコ}祇^キなり
 といふは神さひぬといふは神^{ミコ}祇^キなり
 といふは神さひぬといふは神^{ミコ}祇^キなり

うきま方のいづつふらう浪のう人も
さし浪の上れこまかきそてカキきほみち
て松とつらてそすさやう記みかるとこ
ゆんといふつ世片ると海松といふま
と何となく可成りや
又れるに海とよと車
よりのうまといはにみきり 行助

和光れむい車十二系と照カキととより
うらうかきさう車とまきかまうと車
とまきさうと和光の玉とねうあさう
他者の力ありへられいさくく又徳の也
新タキとをつら人のふさうかた
山賊カキと我らおれたのすことと 教
まのむらいた海せぬむらとめむと

さすも 存まじや かつらんか 此我こ
と ぬいさうて 教^{タキ}成と かんこ かんこ
り かんこ

あつち ぼり の せいの 物よ

あつち ぼり の せいの せいの 基 ちん
そ 別り ちん ぼり の せいの 物と
りい ぼり の 基と ぬい せいの せいの

只の ちん ぼり の せいの せいの ちん ぼり の せいの

らり ちん ぼり の せいの ちん ぼり の せいの

ちん ぼり の せいの ちん ぼり の せいの

ちん ぼり の せいの ちん ぼり の せいの

ちん ぼり の せいの ちん ぼり の せいの

ちん ぼり の せいの ちん ぼり の せいの
と ちん ぼり の せいの ちん ぼり の せいの

たゞさういふ事をもつて懐く心敷
我方のさうすういふ事ある事とさうして
ある人とうとうさういふ事又なす^{トモ}改^トと
めぬ物され^{ハカ}我方と^{カシ}祈^シきくもつて今と
て申^ヒびんとさういふ事

我方よりいふ事老のありれさ
又なすぬさういふ事

前の方よりいふ事他人の老の事也付^{タイ}格^ノ
我方よりいふ事他人の老の事也付^{タイ}格^ノ
申^ヒゆり物也いふ事又なすぬさうい
とさういふ事とさういふ事

さういふ事とさういふ事
立^チ出^デく都^トりすれぬ事乃^ノ唐^ノ
大^オさういふ事とさういふ事

昔とちよ申へあるまじき事にて申すに申す
まやともおふりたるはあつて一にれり
のや^三はすまじり一に^品はらうく世の
いふつらうらうらまじき林のあられ
も又の朋友のまじりあつてもあつれ
あきつぬ申すはらうらまじきとされ
て申す同じりたるものいふら衆の衆

よ^{スミ}信ゆるん夕暮のすまじりよ相する一
あつてまじりたるはらうらまじき
いそつものかまじりたるはらうらま
只の^{ニユキ}はらうらまじりたるはらうらま
ぬ一

又しれゆ中望の月
いふら世をまじりたるはらうらま
宗柳

爰れりきく人へ能く沈吟してあつた
らむ

しづめの忍乃露を力ありむ

虫の多く野のまきと交つて 日敬

のうかひくくくくまきの何ぬれたよのへ

の露れりありむせやれりもあまき山

の雨ぬのされゆきてあま指の交付比ヨス

露れりき野へよ虫のまきくわくく微

よ力ありむりらすくくく

今うきくぬいありぬれり

虫のまきにありむし海にありて家切

いありの海にありてあり物ありあり

いありありありありありありあり

ありありありありありあり

きく火志あれ八月いけり

ふりくを秋乃くさうふ秋に異感

く火に意火の心也甚虫神系のみ

ひの名也神系大田とてまの十二月

河の神系いゆまうぬ本也ある

秋され甚虫といふまつさく秋のく

とらうたうん

いしんくまふあさふあもけ

く秋れ詔をねほの持り 穀

こすを押らるとい妻計なるのみすを

あ方のくくられくふ引られいこり

ていふくもあけく記作しあう係と

えいやくれ付徳い気りたり

とくくらのえん也大野いこすの

大野と云ふ所は、^手毛の事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
ふかりと云ふ所は、おほの^{カニ}と云ふ所也
麻乃^{シカ}面^{カテ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也

かこ^{カキ}の^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也
あつて、おと^{カキ}と云ふ所は、^{カニ}カニの事也

よみ可^ツ常^子のてきく月をい
らしと流^ルその方ととれり他者
のめ^ハあ^ハか^ハお^ハかりととてあ^ハぬ
り^ハこれ^ハ書^ハす^ハい^ハお^ハろ^ハと^ハあ^ハて^ハ論^ハ
あり^ハも^ハ月^ハあ^ハの^ハい^ハに^ハかり^ハて
か^ハれ^ハる^ハん^ハど^ハの^ハい^ハく^ハん^ハど^ハの^ハい^ハく^ハ
は^ハ書^ハす^ハい^ハの^ハい^ハく^ハも

あ^ハき^ハる^ハ霜^ハ小^ハ秋^ハ風^ハう^ハく
月^ハと^ハう^ハた^ハ夕^ハ書^ハい^ハあ^ハり^ハと^ハ夕^ハ教
い^ハ白^ハ花^ハよ^ハう^ハ茶^ハな^ハつ^ハら^ハい^ハあ^ハい^ハも^ハ。
白^ハの^ハい^ハう^ハう^ハう^ハい^ハん^ハも^ハい^ハは^ハる^ハも
無^ハら^ハ月^ハい^ハん^ハお^ハと^ハな^ハり^ハす^ハる^ハい^ハれ^ハあ^ハる
も^ハ月^ハを^ハ書^ハす^ハい^ハの^ハい^ハく^ハも^ハい^ハ流^ハり
と^ハい^ハら^ハん^ハ月^ハを^ハ書^ハす^ハい^ハの^ハい^ハく^ハも^ハ

ハカ

の事やわされがたの書れある一そ
と月よ一してとる也い他たれの家
付る事よいこととあつきうれ福
し也まはにりてるわにれよと
凡そりそ^{ニユト}然^ヒ他若ののわ
我をとりれよと秋の書
はつたれは月よいけよあつたん ちた

そいふひのさよ書と立出くさつたれ
はつたれなり秋の夕書と云ふを
さつたれよい各^{カッ}別也中^ウ言をせ
中れよとりよとる也ば句ののいあそ
りれは月よいけよとるあうりれん
うれよ我ありつれよと秋の書といつ
よゆいよとるも只ありとるよいりるそ

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

高きいさよと名よあはれとよ
つゝ和泉國を海つとよ
あつゝ糸束の杖とて
約ちりとも書か
さじいびりとも日
よく思ひ入てかん
海濱もわゆる

神代の月をくわむけ

天乃たれゆきと
そい天の社と
神代の月乃
ゆき付後よ
天戸とて又
仙若の手を

ハナセ

此書をよみて一句とすあよりり
又あふけりのも合^ニべりす天と
とをさるれをさる^カけり^ニん^カん^カん^カ
くれく句れけり^カん^カん^カん^カ

右一冊者宗祇法師私傳
之書也僕写之令新刊者之

寛永二十一曆八月吉日 勝兵衛

之が
や



